

2009年10～12月期GDP成長率(2次QE)予測

2010年3月4日

調査本部

TEL. 03-3591-1249

3月11日(木)、内閣府より2009年10～12月期の「四半期別GDP2次速報」(2次QE)が公表される。現段階で入手可能な基礎統計により推計すると、同期の実質GDP成長率は前期比+1.0% (年率+4.0%)に下方修正される見込みである。法人企業統計の結果を受けて在庫投資、設備投資が下方修正となるほか、公共投資も下方修正されるとみられる。

<上方修正に寄与>

なし

<下方修正に寄与>

設備投資前期比 :	+1.0%	⇒	+0.6%
在庫投資寄与度 :	+0.1%Pt	⇒	+0.0%Pt
公共投資前期比 :	▲1.6%	⇒	▲3.0%

以上

2009年10～12月期の2次Q
Eは0.1%Pt下方修正

3月11日(木)、内閣府より2009年10～12月期の「四半期別GDP2次速報」(2次QE)が発表される。本日発表された法人企業統計等を受けて、みずほ総合研究所が試算したところ、10～12月期の実質GDP成長率(2次速報)は前期比+1.0%(年率+4.0%)と、1次速報段階の前期比+1.1%(年率+4.6%)から0.1%Ptほど下方修正される見込みである(図表1)。設備投資、在庫投資、公共投資が下方修正されるため内需寄与度のプラス幅が縮小する形となる。上方修正要因となる需要項目はないものとみられる。名目GDP成長率については前期比+0.2%と1次速報の前期比+0.2%から変わらない見込みである。総じていえば、外需やエコポイント等の耐久財購入支援策に下支えされる形で景気回復が続いているという一般的な見方に修正を加える内容とはならないだろう。

【図表1 2009年10～12月期2次QE予測】

(前期比、%)	FY2007	FY2008	2008				2009				2009Q4 寄与度
			Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	
実質GDP	1.8	▲ 3.7	0.9	▲ 1.3	▲ 1.1	▲ 3.0	▲ 3.2	1.3	0.0	1.0	---
(年率換算)	---	---	3.8	▲ 5.2	▲ 4.3	▲ 11.4	▲ 12.3	5.2	0.0	4.0	---
内需	0.6	▲ 2.6	0.5	▲ 1.5	▲ 0.6	▲ 0.3	▲ 2.6	▲ 0.5	▲ 0.3	0.5	0.5
民需	0.7	▲ 3.0	0.9	▲ 1.4	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 3.7	▲ 1.0	▲ 0.4	0.5	0.4
個人消費	1.4	▲ 1.8	0.6	▲ 1.5	▲ 0.1	▲ 0.8	▲ 1.3	1.1	0.6	0.7	0.4
住宅投資	▲ 13.5	▲ 3.7	3.8	0.1	4.0	2.5	▲ 6.5	▲ 9.4	▲ 7.8	▲ 3.4	▲ 0.1
設備投資	1.3	▲ 6.8	4.6	▲ 1.2	▲ 3.9	▲ 7.3	▲ 8.7	▲ 4.2	▲ 2.5	0.6	0.1
在庫投資	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.0
公需	0.1	▲ 1.3	▲ 0.8	▲ 2.0	▲ 0.1	1.1	1.2	1.4	▲ 0.2	0.2	0.0
政府消費	1.5	▲ 0.1	▲ 0.2	▲ 1.3	▲ 0.2	1.1	0.8	0.3	0.1	0.8	0.2
公共投資	▲ 6.4	▲ 6.6	▲ 4.5	▲ 5.3	0.7	0.4	3.6	6.4	▲ 1.6	▲ 3.0	▲ 0.1
外需	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	0.5
輸出	9.3	▲ 10.4	3.5	▲ 1.4	▲ 0.7	▲ 14.5	▲ 23.8	9.2	8.4	5.0	0.7
輸入	1.8	▲ 4.2	1.0	▲ 2.7	2.6	0.1	▲ 17.6	▲ 3.9	5.4	1.3	▲ 0.2
名目GDP	0.9	▲ 4.2	0.8	▲ 1.6	▲ 1.6	▲ 1.6	▲ 3.4	▲ 0.1	▲ 0.5	0.2	---
デフレーター(前年比)	▲ 0.9	▲ 0.4	▲ 1.1	▲ 1.3	▲ 1.2	0.4	0.3	▲ 0.7	▲ 0.7	▲ 2.5	---

(注) 実額データより変化率を計算している為、公表されている変化率と一致しないことがある
(資料) 内閣府「四半期GDP速報」よりみずほ総合研究所作成

設備投資は小幅に下方修正

法人企業統計季報によると、10～12月期の設備投資(ソフトウェアを除く全産業ベース)は前年比▲18.5%(7～9月期同▲25.7%)となった。季節調整済前期比では▲0.9%(7～9月期同▲8.2%)と減少幅はかなり縮小したが、引き続き低調な推移が続いた。供給側統計から推計されていた1次速報値に今回の法人企業統計の結果を加味すると、GDPベースの設備投資は1次速報の前期比+1.0%から同+0.6%に下方修正されるものとみられる。

在庫投資寄与度は1次速報値よりプラス幅が縮小

民間在庫投資は、法人企業統計の結果を受けて原材料在庫や仕掛品在庫の推計値が加わり、それぞれ1次速報段階での仮置き値から下振れしたとみられる。また、製品在庫も下方修正となった模様である。実質GDP成長率に対する寄与度は1次速報段階の+0.1%Ptから+0.0%Ptに下方修正される見通しである。

内需寄与度は+0.5%Ptに下方修正

その他の内需項目では、公共投資が前期比▲1.6%から同▲3.0%に下方修正されるものとみられ、内需寄与度は1次速報値の+0.6%Ptから+0.5%Ptに下方修正されると予想している。なお、外需の寄与度は+0.4%Ptのままだろう。

景気の回復モメンタムは次第に鈍化

1～3月期以降について、輸出が増加基調を維持して生産を下支えするものとみられるが、エコポイントなど耐久財購入支援策の限界効果が次第に薄まってくる中で

民需は牽引役を失うだろう。「コンクリートから人へ」の副作用で公共投資を中心に公需も低迷するものとみられる。足許では大手自動車メーカーのリコール問題がどの程度の長さ・深さで経済全体に影響を及ぼすかも懸念される状況だ。V字に近い形でリバウンド的回復を示してきた景気も、全般としては勢いが鈍ってくるだろう。

※ みずほ総合研究所では、10～12月期の2次QEの発表を受けて、2009・10・11年度内外経済見通しを改訂する予定（3月12日公表）です。

以 上

MIZUHO

The logo for Mizuho, featuring the word "MIZUHO" in a bold, dark blue, sans-serif font. Below the text is a red, curved swoosh that underlines the letters.